

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あうりんご谷山		
○保護者評価実施期間	R7年 1月 6日	～	R7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	R7年 1月 6日	～	R7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○訪問先施設評価実施期間	R6年 12月 24日	～	R7年 1月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 17
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種で介入しており、作業療法士・言語聴覚士それぞれの専門的視点から支援を行っている	必要に応じて、専門領域の検査（遠城寺式乳幼児分析的発達検査・感覚プロファイル・S-M社会生活能力検査・固りハ式<S-S法>言語発達遅滞検査・新版構音検査・絵画語彙発達検査(PVT-R)・質問-応答関係検査)の結果について、情報提供を行うことで児の発達段階や園・学校での課題を見つけやすくしている。また、訪問後に専門職同士で情報共有を行い、必要な支援について検討する機会を作っている。	今後も継続して専門領域の検査を実施・共有するとともに、支援の質向上のため、研修、講習会への参加を行い周知研修の機会を増やしていく
2	訪問先、保護者からの聞き取りや話し合いを行い、情報提供ができるようにしている	訪問時の様子だけでなく、普段の困りごと・課題についてもお聞きし、園・学校や家庭で取り組めることの提案を行っている	訪問先や家庭の状況に合わせた提案ができるよう、様々な知識を得る機会を作っていく
3	保育所等訪問支援で見られた課題解決へ向け、関係機関と連携し統一した支援ができるようにしている	自事業所のみでなく、併用事業所、相談支援事業所とも情報共有の機会を作っている	必要に応じて画像や動画で共有し、課題の共通認識ができるようにしていく。自事業所の療育の様子を見学する機会も作っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問先の状況に合わせた支援の仕方の工夫	支援の目的や、訪問先の状況に合わせた支援の仕方・回数についての共通認識が不十分だった。(特に直接支援についての理解・介入の仕方に訪問先によっては拒否的な所もある)	保育所等訪問支援の目的について、具体的にお伝えする。訪問先の状況に合わせた内容・頻度について、訪問前後に確認を行う。
2	訪問先によっては情報共有する時間・機会が少ないところがある	訪問先によっては間接支援の時間・機会が少ないところがあり、情報共有が十分に行われないところがある。	訪問先との情報共有を行う時間の確保・共有の仕方について今後検討が必要である
3	保護者・きょうだい同士の交流の機会がない	以前は夏祭りの行事で保護者・きょうだいの参加を促していた。感染症対策により交流の機会がなくなり、それ以降行事参加は行っていない。	就学に向けての情報交換、子育ての悩みなど共有する場として、保護者・きょうだいの同士の交流や、行事参加など検討していく。